

FMの実践基礎講座

(キャンパスFM研究部会)

『建築の力』を
キャンパスづくりと施設経営に

講演者：大谷 英継 (JFMAキャンパスFM研究部会 副部会長)

- 講演者：大谷 英継（JFMA キャンパスFM研究部会 副部会長）
 - 認定ファシリティマネージャー、一級建築士

- 自己紹介

- 早稲田大学理工学部建築学科卒
 - ゼネコン勤務（8年間）
 - プラントメーカー勤務（9年間）
 - 機械メーカー勤務（10年間）
 - 学校法人文京学院（8年目）
 - 2018年学校法人文京学院 法人事務局施設課長
 - 2025年学校法人文京学院 法人事務局担当部長（施設課統括）
 - 趣味
 - 作曲、編曲、ギター演奏
 - カメラ、写真撮影（風景＋ちょっと鉄道）
- 本学（文京学院大学）での事例をもとにFM活動実践例をご紹介します。



文京学院大学とは

1924年に島田依史子が創設。島田裁縫伝習所からスタート

1964年～文京女子短期大学

1991年～文京女子大学を開設

2002年に**文京学院大学に改称**し、2005年全学部を男女**共学**に移行

文京区本郷と埼玉県ふじみ野市の**2キャンパスに5学部**を持つ総合大学
(外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部、
および 新設の ヒューマン・データサイエンス学部)

本郷キャンパスは 地下鉄南北線 “**東大前**” 駅に直結。



- 100周年を記念し映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』を製作
- 原案：島田依史子（本学創立者）
「信用はデパートで売っていない 教え子とともに歩んだ女性の物語」
- 2025年10月24日全国ロードショー(配給：GAGA☆)



本日の講演概要の要点

- 入職以来実践してきたFM活動を中心にお話ししたいと思います。何らかのご参考になればうれしいです。
- 1. 造る立場から使う立場へ
- 2. 使う立場に立って気づいたこと
- 3. 学びの変化、社会変化への対応
- 4. 建築出身だから
- 5. 経営層として深めたい学び
- 6. 最後に

第1章 造る立場から使う立場へ



文京学院

1. 造る立場から使う立場へ

- これまで3種の職場についてが業務の中心となったのは**マネジメント**だ。大学で学んだ建築の技術的知識に加えプロジェクト管理手法を習得してきた。
- 特に実務経験を積むごとに、プロジェクト全体をマネージすることが重要であることに気づいた。
- いずれの職場でも「造る」という側面だけでの関わりであった。**ニーズを整理する**のも、造った後の**建物の活用**も全てユーザー（使う側）に委ねられている。
- ユーザーの役割は重い。造るだけなら結局は建築の一側面しかかかわれない。**建築の全体にかかわる立場**で活躍すべく、「使う側の」世界に入ってみようと思った。
- 私のキャリアも末期に入り、これまで培ったノウハウを伝承できないか、さらに日本の未来において**教育が果たす役割**は大きいので、教育で貢献できないだろうか、と興味を持った。
- **それで、キャンパスFMの世界に飛び込んでみることにした。**

第2章

使う立場に立って気づいたこと



文京学院

2. 使う立場に立って気づいたこと

非効率の発見

- ・人通りが多い場所に倉庫
- ・使われなくなった電話BOX等が放置され、シンボリックな吹き抜けを阻害
- ・条例で使えなくなった喫煙ルーム
- ・使われない、利用頻度が低い掲示板スペース・・等々

施設課主導での課題整理～改善提案

- ・他大学の視察を積み重ねると課題の気づきが増え、学生の潜在ニーズの洗い出しも容易になってくる。
- ・学生の**自習環境、居場所づくり**は施設課主導で、上層部に提案し、**幾つもの改善が実施**できる。

→本章で、その事例を示します

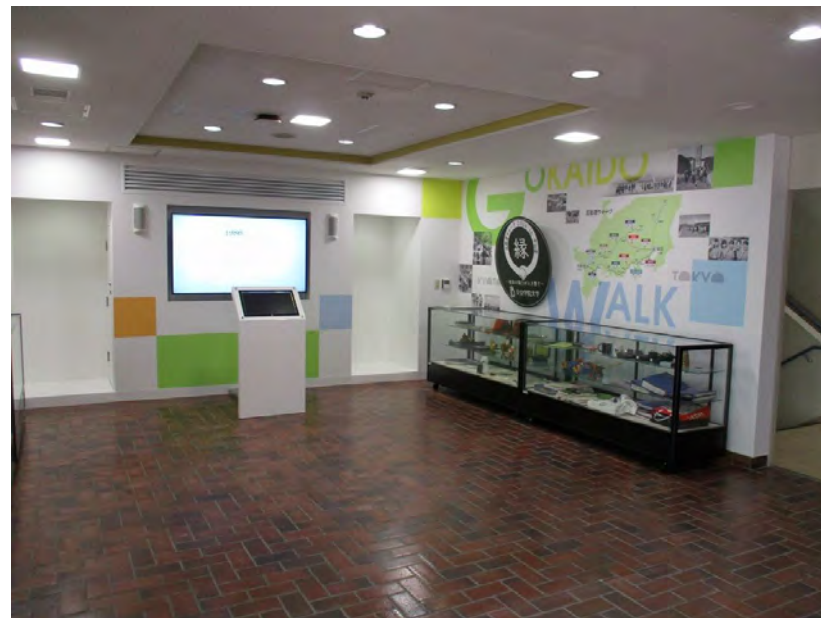
教職員・学生との協業

- ・新学部設置をはじめ、経営陣・教職員の様々な意向を尊重し、協業して対応する課題も多い。
- ・教員・学生と共に**キャンパスを育てる**活動もある。

→第3章で、その事例を示します



非効率な空間を有効活用



倉庫の中に教育実績を保管するだけではもったいない。来場者も含め、皆さんに見れる形で表現できないか。

本学の教育プログラム（五街道ウォークと新文明の旅）の教育実績の紹介スペース

明るく開放的となった。



文京学院大学

非効率な空間を有効活用



証明写真機、使わなくなった電話ボックスで、シンボリックな吹き抜けを阻害している。

明るい吹き抜けを持つ、学生の居場所を提供



文京学院大学

非効率な空間を有効活用



健康増進法、条令によりキャンパス建屋内では喫煙ができなくなった。

喫煙スペースが放置された。

リモート授業を受講するブース、
高集中学修スペースへ転換



文京学院大学

非効率な空間を有効活用



学生が良く使う通路にキャンパスの裏方倉庫があるのはもったいない。

学生に開放したい。

廊下を通路としてだけでなく、居場所として一体的に整備



文京学院大学

非効率な空間を有効活用

B'Sコモンズ（施工前）



掲示板スペースがいなくなった。



学生がおらず、閑散としている
スペースとして非効率



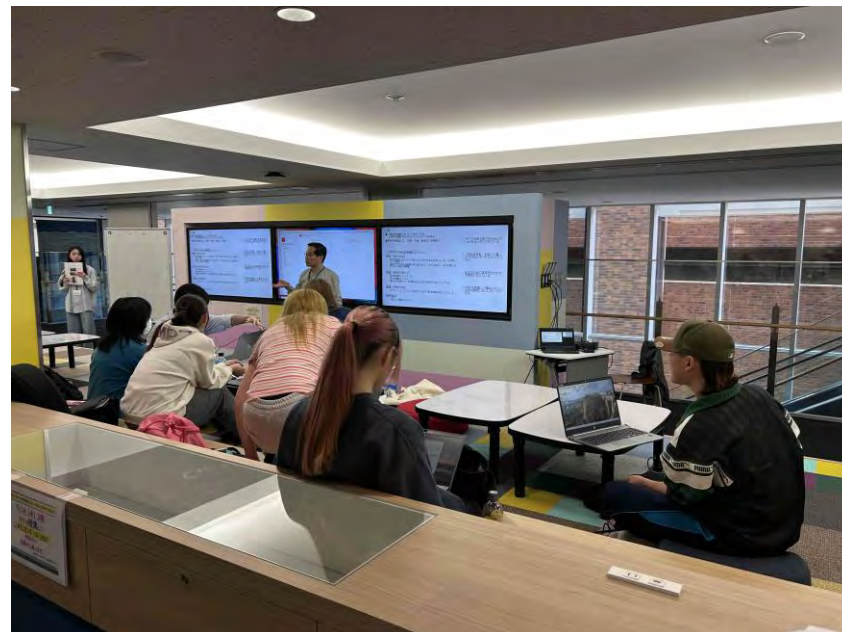
文京学院大学

非効率な空間を有効活用



ポップで開放的な空間。
ちょっとチルしてOK。

B'Sコモンズ（施工後）



たまたま通りかかったらおもしろ
かったのでもっと授業を聞いて
みる。

プレゼンテーションの練習もできる空間

具体的には第4章の「建築出身だから」実施できた事例として説明します。

第3章 学びの変化・社会変化への対応へ



文京学院

3. 学びの変化・社会変化への対応へ

- いままでのように先生が前に立って、一方的に講義する学びから、**Project Based Learning（課題解決型学習）**といった新しい学びが展開されてきている。
- **新しい学び**に対応した施設整備。
- **地域貢献**の可能性について学生、教員とともに考えた。
- 新しい学びの場は、施設課が一方的に造っても使われるようにはならない。変革に積極的な教員とタッグを組み、**納得いく場づくりを協業した時に** 利用も活性化する。
- まちラボの紹介

文京学院大学まちづくり研究センター (まちラボ) の紹介

・教員・学生主導の活用事例

・まちづくり研究センター（まちラボ）での実践例

- ・以前は**幼稚園児向けの外国語学習、研究施設(CLEC)**をより併設幼稚園に近い場所に移転することとした。
- ・**本郷通りに面した場所**なので、**地域課題に取り組む、研究施設**として**まちづくり研究センター（まちラボ）**としてしつらえた。
- ・**ファサード**は経営学部デザイン系の教授と学生がデザインした。
- ・**内装**は施設課主導でデザインし、**空間提供**した。
- ・教員の指導のもと、**学生の学びの場として活用**を始めた。
 - ・同時に地域と連携し、**共生社会の構造を目指す実験空間**として活用する。

文京学院大学まちづくり研究センター (まちラボ) の紹介

・サードプレイスとしての大学キャンパス

- 家庭、学校や幼稚園、そしてサードプレイスとして子供たちの居場所を提案ができないか、との学生の問題意識からスタートした。
- 本郷キャンパス周辺の親子をターゲットとして、まちラボを拠点にして子どもが空き地のように遊べる場所としてキャンパスを空間提供できないか考えた。
- 学生のゼミ活動として、「**みんなの空き地**」を提案してみた。

「みんなのあき地」に込めた思い

昭和のころのあき地の機能を、大学のキャンパスが担えないか



様々な世代がそれぞれの楽しみ方を見つけられる場をつくるとともに、
未来と過去をつなぐ幅広い可能性を持つ場づくりを目指す

チョークで落書き体験

- ・めったにできない体験を届けることができた。
- ・七夕向けの笹に願い事の短冊を多くの人に書いてもらうことができた。



ウォーターシューティング

「家に帰ったらまたやってみよう」と
言うほど子供たちの満足度は高かった。



文京学院大学

ストラックアウト

休憩スペースでは親が休憩し、
遊び場では子供が楽しんでいる。
休み場と遊び場が並列していた
ため保護者も休憩することがで
きるなど自由度があった。



ミサンガ製作体験

・ お子さんが編んでいる様子を見て保護者の方も懐かしんでくれた。



文京学院大学



多数の来場者に集まって頂けた。

施設課だけでは思いつかない空間の使い方を実践。

→教員、学生とのコラボの重要性
地域貢献の可能性が広がった。



文京学院大学

学びの変化・社会変化への対応へ ～新学部の設置と近未来講義室

- **大学における数理・データサイエンス・AI教育の推進の動きが活発になっている。**
- **大学がデジタル分野などの特定成長分野に学部設置や高度専門人材を育成する大学院教育を行うことを支援すると文科省も発表した。**
- **こうした社会変化への対応として、本学でも新学部（ヒューマン・データサイエンス学部）を設置することを理事会決定。**
- **文科省へ設置認可申請。認可済み。**

新学部設置と近未来講義室

- 新学部で設置する**大講義室、3次元動作解析室、ものづくりラボ、録画スタジオ**について、どの部屋を改修すれば成り立つか目星がついた。
- 既存教室の**転用・共用計画**を検討し、教室が足りることを確認した。新築ではなく**改修工事**で**対応できることが分かった**。
- 建設費高騰など諸件を鑑み、建築の**新築工事**ではなく、**改修工事にて新学部設置対応**することを決定した。
- 3つのポリシー、カリキュラム、シラバスなど教員、職員連携組織の**設置準備委員会**で方針決定。
- 設置準備委員会から**近未来の講義室**をと要望が提示された。

新学部設置と近未来講義室

- 設置準備委員会の要望は**近未来の講義室**を。
- **近未来の講義室とは？**
 - 最新視聴覚デバイスを備えた講義室なのか
 - ピカピカした宇宙船のような内装なのか
- 教員との会話の中で、一つのキーワードになったのは**アクティブラーニングができる大講義室**、であった。
- これをコンセプトメイクのスタートにしようと考えた。
- 次の章「建築出身だから」できたことの事例として説明します。

第4章 建築出身だから



文京学院

4. 建築出身だから

- 自分は建築出身だからその強みを生かそう
- 強みとは
 - 図面が読める（学生時代からの修練）
 - 図面が描ける、スケッチが描ける（一級建築士の受験勉強と実務経験）
 - スケール感の体得、図面での空間提案
 - 空間体験の蓄積
 - 名建築の体験
 - 他大学キャンパスの見学（JFMAやその他団体での見学会）
 - ほかの職員ではできない提案ができる
 - コンセプトを具体化できる（単なる思い付きではない精度）
- 建築を知っているから有利なこと
 - 建築基準法
 - 用途地域について、避難経路について、高さ制限について、計画道路についてなど
 - 撤去できる壁と撤去できない壁について
 - ボード壁、雑壁、構造壁
 - コンバージョン、リノベーションの提案
 - 消防設備、空調設備、換気設備
 - ゼネコンとの協働がスムーズ（技術用語、法律用語の習得）
 - 工事実施時のかわり方
 - （業者のいわれるがまま→指示指導する立場へ：より精密な目標の達成）

一般的な大講義室 ～文京学院大学 階段教室の改修

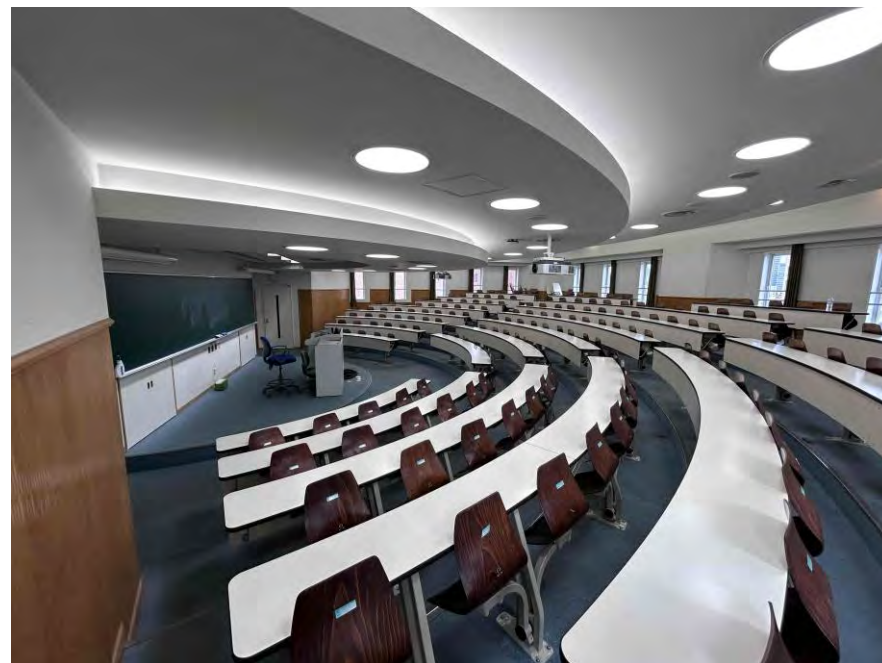
後席からも黒板や、先生の姿が見やすい階段教室となっている。

求心性がある半円形の座席レイアウト、座席レイアウトに合わせた天井形状

（平成初期のころのデザインとしてはよかった。）

反面、ありきたりで古臭い大講義室とのそしりも免れない。→ 役目を終えたのではと考えた。

ここを大胆に変えようと判断。

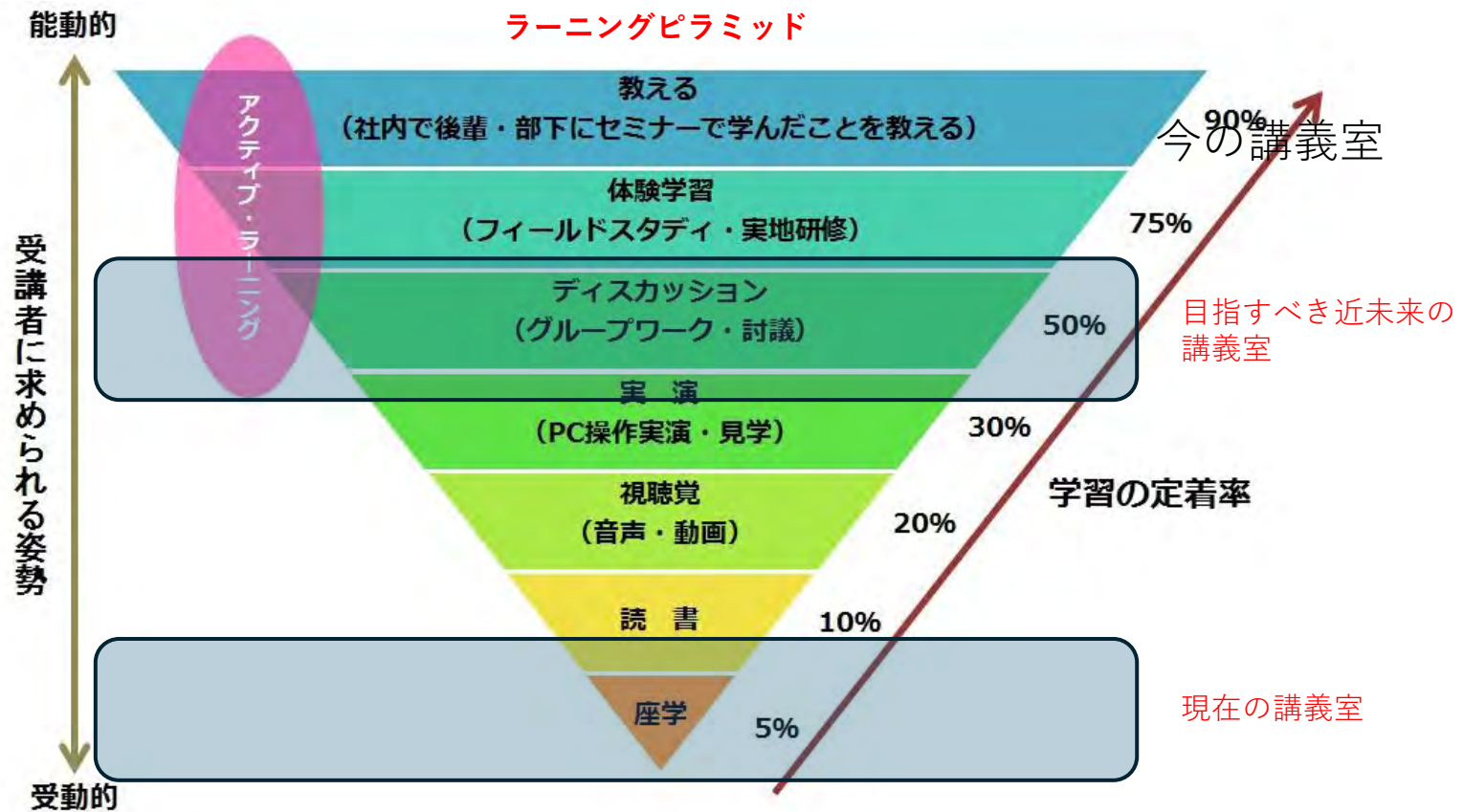


建築出身の強みを生かすには

- コンセプトをつくる、提案する
 - “近未来的な講義室”とは
 - 役目を終えた空間をどう生かすか
- 今までの建築体験（見たもの、聞いたもの、体験したもの）の中で今回のプロジェクトにあいそうなものはなにか、アイデアを出す。
- 教員との会話の中ででてきた、アクティブラーニングができる大講義室を検討してみようと考えた。

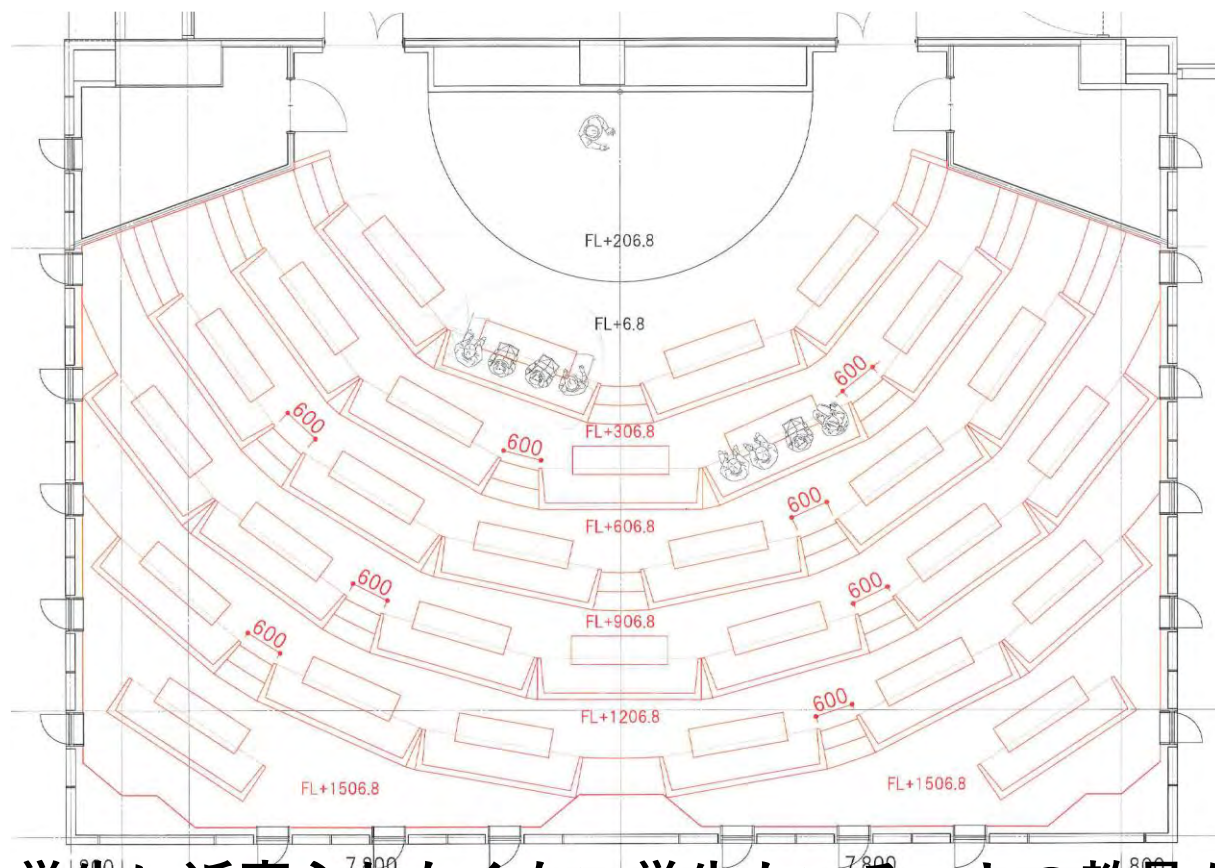
近未来の講義室へのコンセプト～学内提案するまで

- アクティブラーニングができる大講義室を目指す



近未来的な講義室をつくる～学内提案するまで

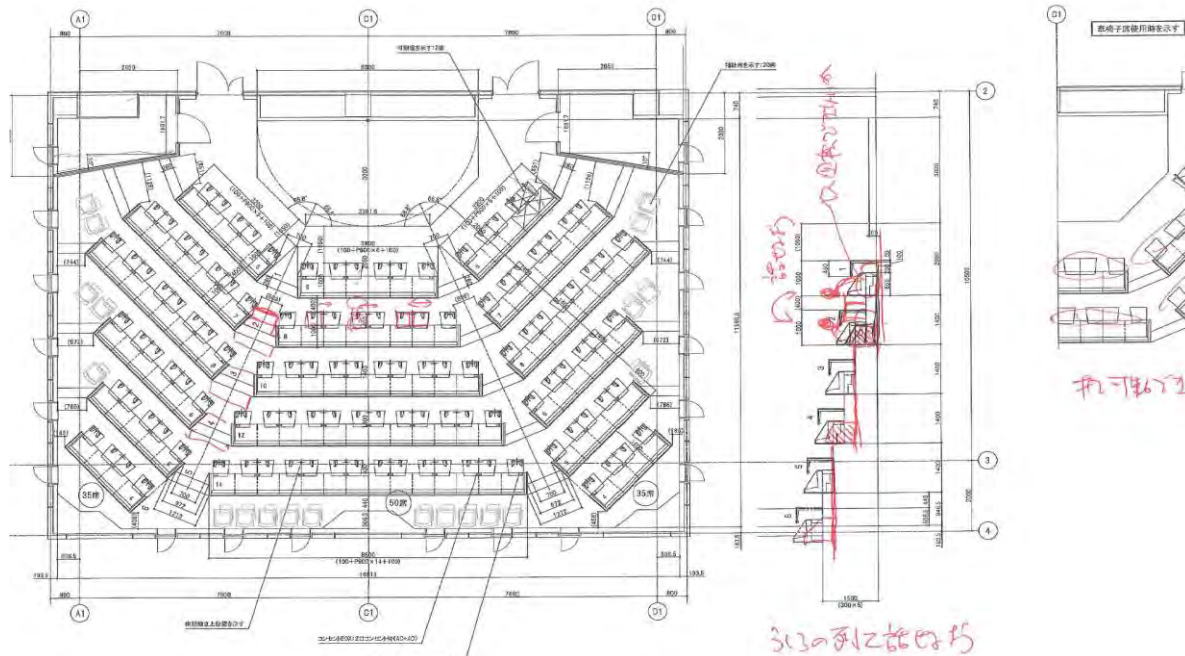
- 一案目はアクティブラーニング要素がなかったので再検討いただいた。
- イギリスにあるリーズ大学の改修事例を参考に。
 - 設計者と協議した第2案



- **悪質な学生に近寄られたくない学生もいる、との教員から意見を取り入れ再度検討。**

コンセプトを具体化する～学内提案するまで

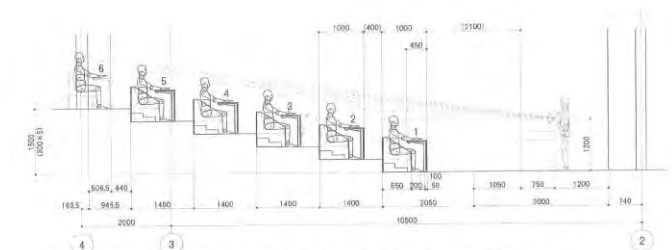
- 悪質な学生から別の学生を守る後席の自由度を広げる。前席とのコミュニケーションをとれるようにする。
- コンセプトを設計者に伝えた。
 - 協力業者からの第3案



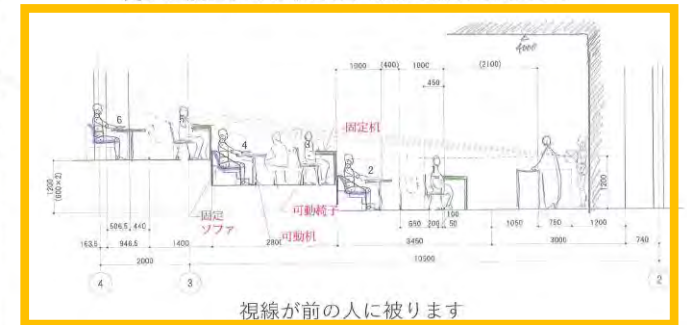
- より学生同士のコミュニケーションを活発にさせ、より高度なアクティブラーニング対応にするため前後席の床レベルを合わせる。

コンセプトを具体化する～学内提案するまで

- よりアクティブラーニングができるよう
- 協力業者からの第4案



列ごとと段差がある場合は、教師の顔まで見えます



- 視線が前の人に被る→目的は先生の講義をじっと聞くのではなく、より活発なコミュニケーションをとりつつ展開する授業
- 椅子を移動する際音が下階に伝わる→仕上げ材を見直す。

コンセプトを具体化する～学内提案するまで

- 近未来的な講義室をつくる
 - よりアクティブラーニングができるよう
 - 協力業者からの第5案修正コメント



黄色 = タイルカーペット
青 = タイルカーペットと硬質ビニル

- 歩行部分には耐摩耗性が高い硬質ビニル
- 座席下は柔らかいタイルカーペット
- デッドスペースをなくす

コンセプトを具体化する～学内提案するまで

- 近未来的な講義室をつくる
 - よりアクティブラーニングができるよう
 - 協力業者からの第6（最終）案



- 設計者さん、施工業者さんと家具メーカーさんによる開発。
- おそらく国内初事例？

実施案の完成

近未来の講義室をつくることに対する施設課としての回答



- ・ 席が近い仲間とグループ討論（アクティブラーニング）
- ・ 全席PC用電源（2個：PC＋タブレット用設置）
- ・ プロジェクタスクリーンとホワイトボードが一体化した製品を採用
- ・ 階段教室の後席上部は圧迫感があるので天井レス

設置準備委員会での了解、理事会承認済み → どのような授業が展開されるか楽しみ

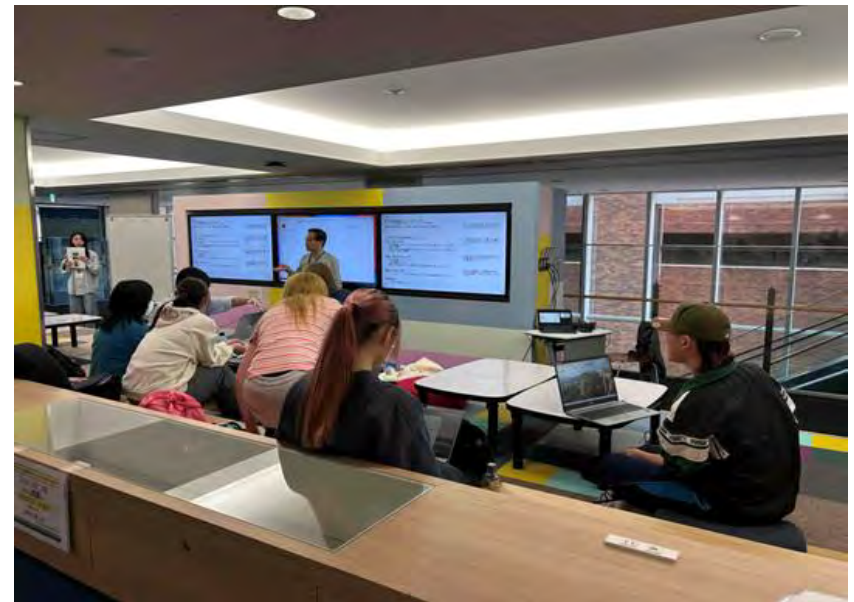


建築出身者の強み ～B'Sコモンズの実施例について

前章でご説明した非効率な空間を学生に有効なスペースに生まれ変わらせた事例をご説明します。



ポップで開放的な空間。
ちょっとチルしてOK。



たまたま通りかかったらおもしろ
かったのでもっと授業を聞いて
みる。（辻説法のような）

プレゼンテーションの練習もできる空間

コンセプトの具体化について

- 役目を終えた掲示板エリアをどう生かすか
- ちょっとチルできる。集える。学修できる。プレゼンの練習ができる。
- 授業ができる。（辻説法のように他の教職員、他学生も聴講できる）
- 第1案



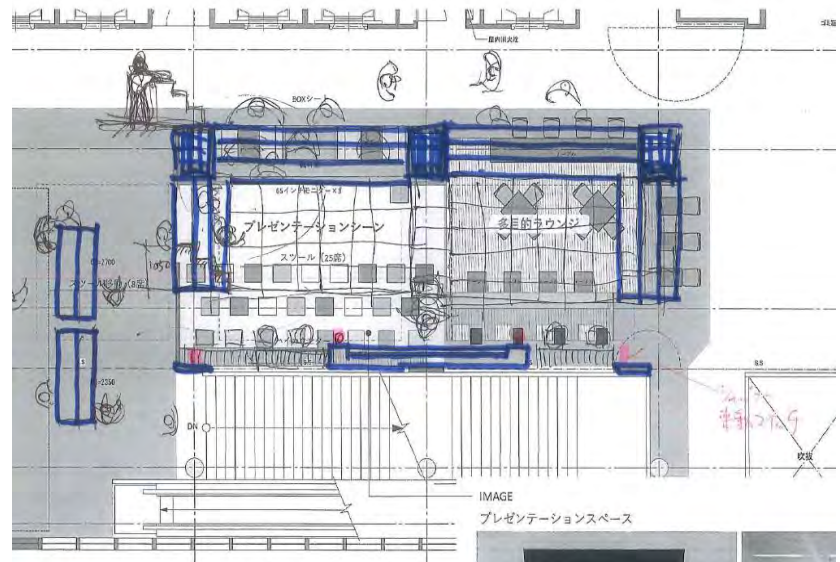
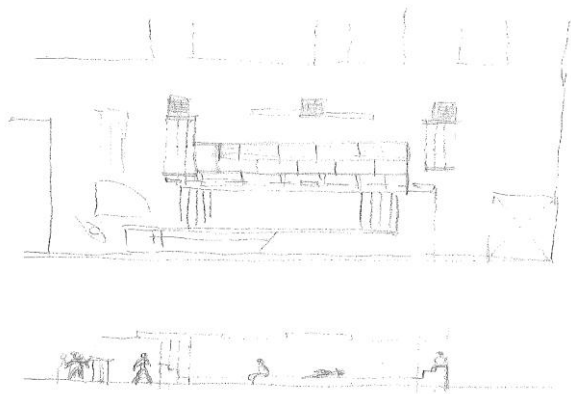
- カフェ案



- プレゼンスペース＋ラウンジ案

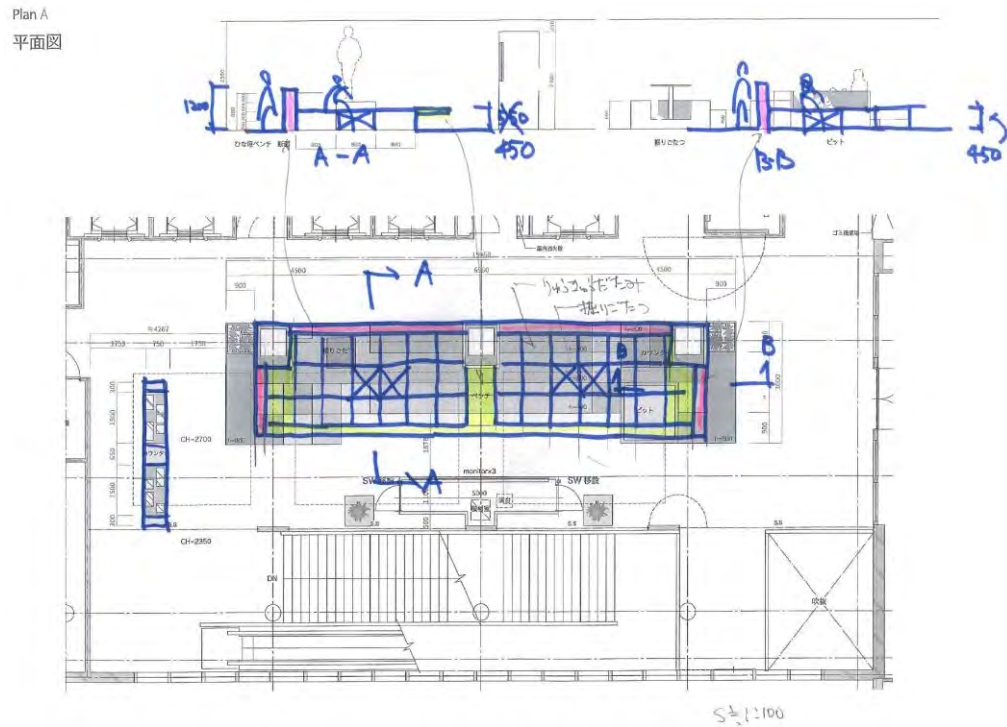
コンセプトの具体化について

- 考えを話してみる
- イメージを伝える（なかなか伝わらない）

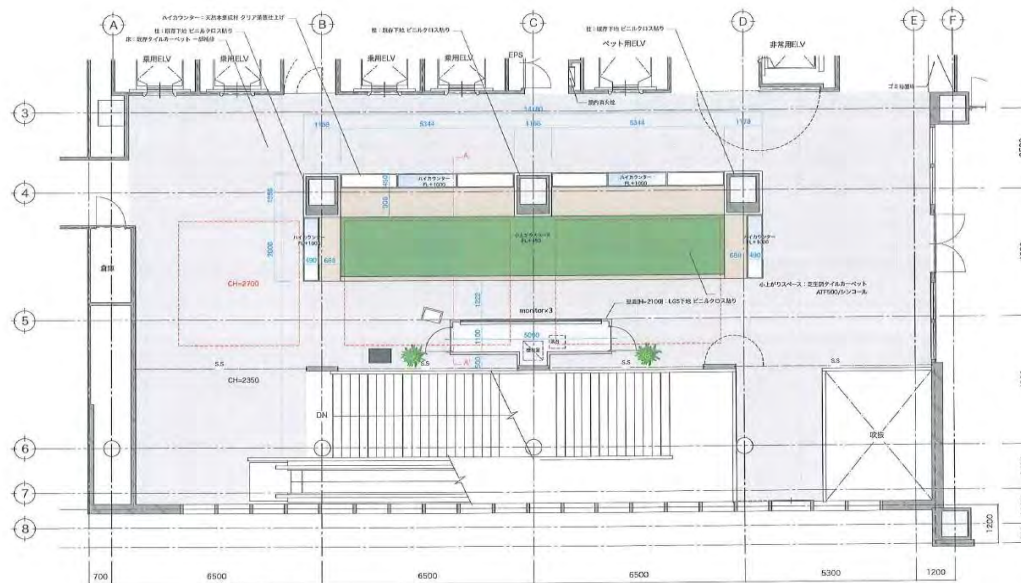


コンセプトの具体化について

- イメージを伝える
- わかってもらうようスケッチする



- イメージを伝える。共有する。
- 伝わりとあとは早い



テイストを決める / 設計者に伝える

- イメージを伝える、共有する
 - どんなテイストで進めるか。
- (伝わるとあとは早い)



Pop Style

学院カラーのグリーンをメインに用いながら多彩な配色で自由で活潑な雰囲気を出し、小上がりの床面には芝生調のタイルカーペットを用い、オープンスペースの間接感も演出。

第5章

経営層として深めたい学び



文京学院

5. 経営層として深めたい学び

- **上層部へのプレゼンと理事会の合意形成**

- **他学の施設経営事例**から学びの幅・深さを広げる（JFMA研究部会活動を通じた学び）

- **長期の需給変化**への対応

- 2040年には**全大学定員の27%**が余剰になる。
- 大学の**規模・機能の大幅な見直し**、**キャンパス再編**の検討の道筋

- **短中期の保有資産利活用**

- 学納金以外に収入を得る方策の検討・実施
- 保有資産の利活用（※）

※以下のページで学生寮の一階部分を学童施設にコンバージョンして貸し出している事例を示します。

学生寮の一階部分を学童保育施設にコンバージョン

- 昭和的な旧式な学生寮
 - 風呂便所共同、掃除の分担 → 一見人気がない
- だが、入居後の**定着率、利用満足度は高い**
 - アットホームなコミュニティ、親身な管理人さん
 - 大幅に増えないが、なくなる。残したい。

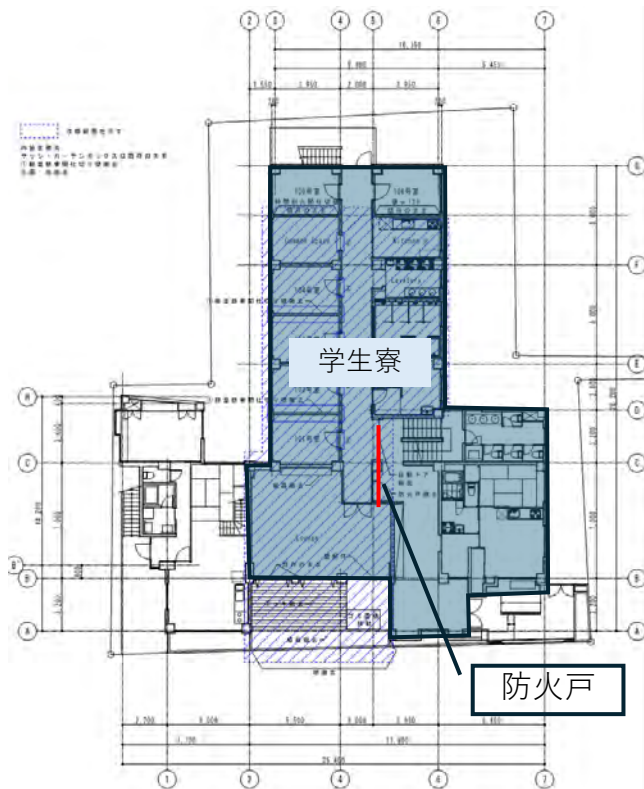


1階から3階までの学生寮を**集約**して
1階を**学童保育**(※)とし2, 3階を
学生寮として**共存させる**検討を行った。
(※学童保育の対象は小学1年生から
3年生までの生徒としています。)

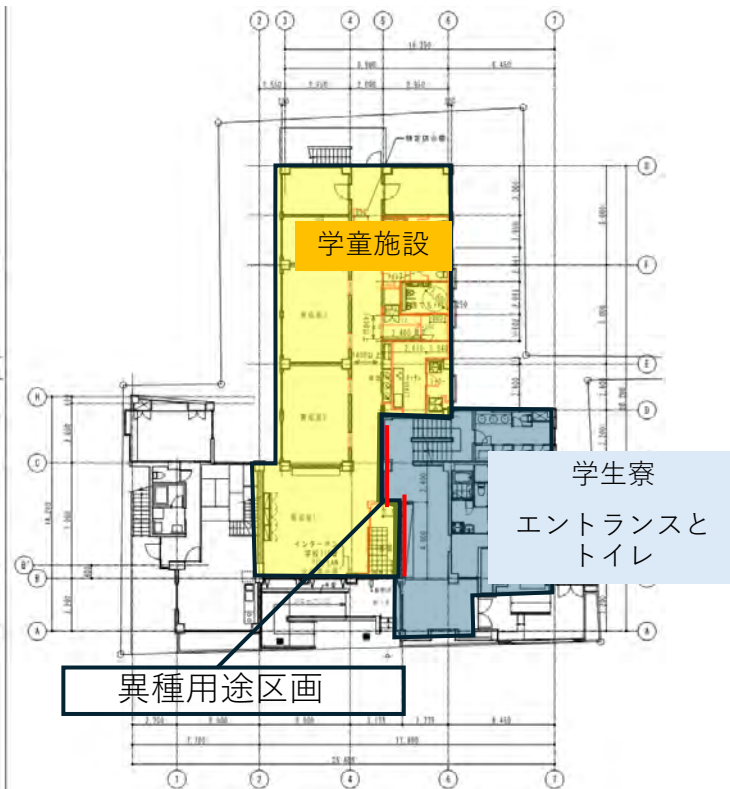


学生寮の一階部分を学童施設にコンバージョン

- 学生寮と学童施設の異種用途区画形成
- 個別のエントランス
- 避難経路の確保
- おのこの独立した消防警戒区域との連携



• 施工前



• 施工後

学生寮の一階部分を学童施設にコンバージョン

- 寮室は個室
- 家具は備え付け、エアコン完備
- コンバージョン後、寮室は2，3階のみ



学生寮の一階部分を学童施設にコンバージョン

- 文京区殿とのコラボ
- 保育室の設え



文京学院大学



談話室を広めの保育室に模様替え



車いす対応のため下部をオープンに



間仕切り壁を撤去し寮室2室を保育室1室に模様替え

学生寮の一階部分を学童施設にコンバージョン

- 文京区殿とのコラボ
- 保育室の設え



文京学院大学



こどものおやつを用意するためのキッチン完備



見通しの良い廊下



親しみやすいサイン計画

こども家庭庁のHPで文京区と本学が好事例として紹介された。

- ・ 相互協力に関する協定を締結していたためスムーズなプロジェクト遂行が実現。
- ・ 文京区：待機児童対策としての場の確保
- ・ 文京学院：地域貢献、保有資産の活用
- ・ お互いWIN-WIN

【場の確保】 文京学院大学 大学施設(学生寮)の活用 (東京都文京区)

概要・ポイント

- ▶ 学生寮への入寮希望者の減少による空きスペースを放課後児童クラブに改装。
区側としては「新たな受け皿の確保」と、大学としては「地域貢献」「遊休資産の活用」となった。
文京学院大学と文京区は、平成17年2月に相互協力に関する協定の締結をしていたこともあり、円滑に進めることができた。

具体的な取組内容

取組前の課題

- ・ 区が進めてきた子育て支援施策の充実に伴い、子育て世代の転入が増加し、児童数も増加。
- ・ 都心の区であるため、土地や施設の確保が困難。放課後児童クラブの需要に地域偏在あり。
- ・ 入学学生の減少、既存の寮設備と学生のニーズのアンマッチにより入寮希望者が減少しており、遊休資産となっていた。

内 容

施設名	誠之第三育成室 (定員：40名) 令和7年4月開設
施設の状況	原則3年生まで利用可。4年生以上は、「アクティ」(放課後子ども教室)や近隣の児童館を活用。
費用負担	区の補助金を活用し、大学側が改装・整備したものを区が借り受け。
工夫点	立地は、主な利用児童が通学する誠之小学校から至近距離(80m)。 学生寮の1階部分を放課後児童クラブへ改装。 寮の出入り口と放課後児童クラブの出入り口・動線を完全に分けることにより安全性とプライバシーに配慮。 大学側が改装・整備することで、短期間での開設につながった。(相談開始から約2年で開所)

取組の成果

- ✓【文京区】待機児童対策としての場の確保
- ✓【大学】 地域貢献、遊休資産の活用

第6章 最後に



文京学院

最後に：建築出身FMerとして

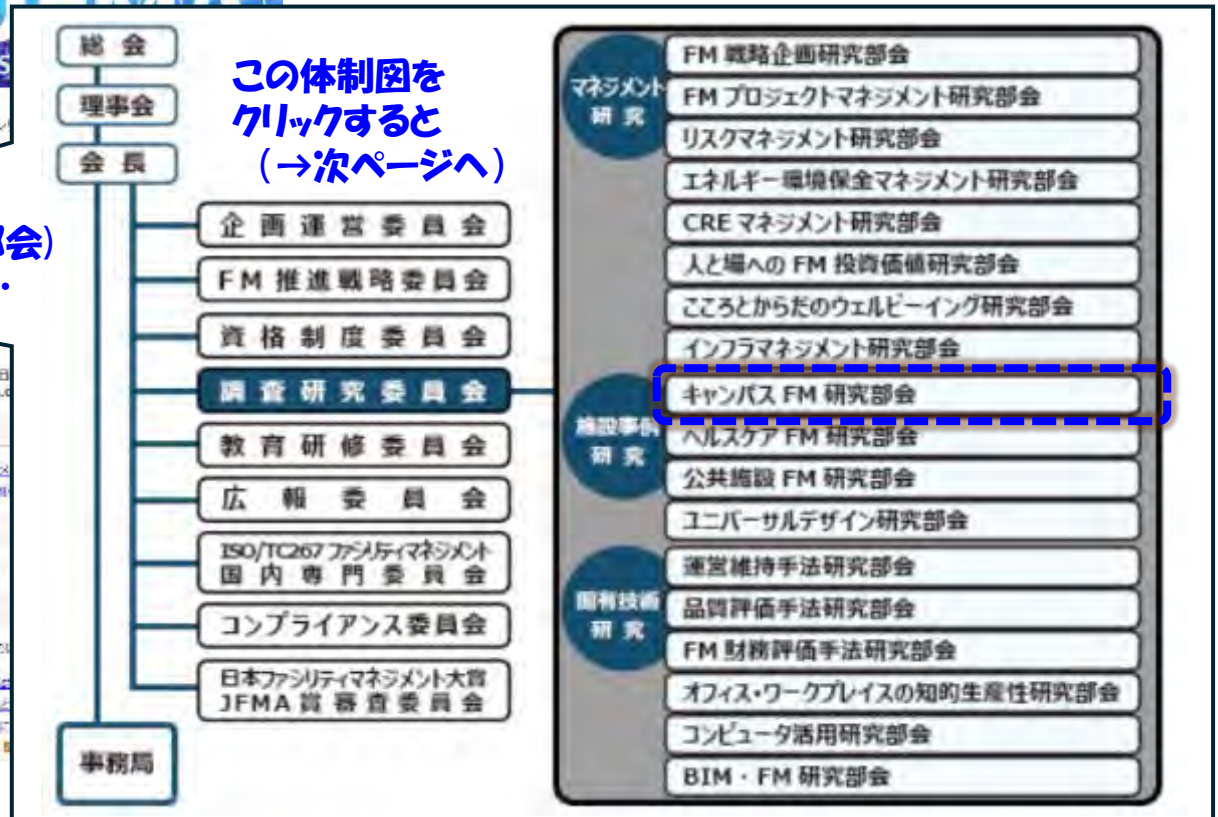
- 建築業界、教育業界のトレンドをウォッチ
 - 他大学さんのキャンパス見学と実施事例研究。
 - JFMAキャンパスFM部会の活動を通じて
 - 他団体での活動を通じて
 - 協力業者さんとのコミュニケーション
 - 勉強会や講演会の参加
 - 木造の高層建築の可能性
 - 社会環境の変化、社会からの要請
 - 環境負荷低減、建物のZEB化
- 不易流行
 - 学校の建学の精神、校訓は変えない。これまでの沿革に沿った計画
 - 変えていくものと変えてはいけないものを峻別。

最後に：今後の展望

- 選ばれる大学になるには、との視点をもった施設整備
 - 建築専門知識とFM知識を活用し**高度な専門性**を発揮する。
 - **地域との連携**強化
 - 学生、保護者の**満足度**を意識する。
 - **社会の要請**にこたえる。**学生主体**の学生が学びたい学修環境を提供。
- FM的発想の拡充
 - FMの仲間を増やしたい
 - **JFMAキャンパス部会**のご案内

JFMAキャンパス部会の紹介

JFMAトップページの左メニューから…



JFMAキャンパス部会の紹介

[illegible]

大学は進学者減少期を迎え
厳しい時代を迎えています。
学生に選ばれる魅力を持ち続けるには、
**経営資源の過半を占める施設を
経営にとって最適な構成・状態・運用に
することが重要であり、それがFMです。**
大学の教職員のみならず全ての方の参
画をお待ち
しています。

JFMAキャンパス部会の紹介

01. FM総務企画研究部会
 企業として「経営」を数値で「FM化」を図りたい。経営戦略に
 必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報提供、知識
 提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FM総務（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
02. FMITプロジェクトマネジメント研究部会
 FMプロジェクトマネジメントに関する、最新情報や知見、
 事例に関する発表等を行う。1回、1回参加費が1万円（1万円
 以内）で参加可能な研究部会である。事務局：FM総務（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
03. リスクマネジメント研究部会
 企業として「リスク」を数値で「FM化」を図りたい。リスク管理に
 必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報提供、知識
 提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと財務情報（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
04. エネルギー環境保全マネジメント研究部会
 環境問題に関する経営戦略、PM活動に関する情報提供、知識
 提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと環境情報（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
05. CREマネジメント研究部会
 企業として「CRE」を数値で「FM化」を図りたい。CRE管理に
 必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報提供、知識
 提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMとCRE（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
06. 人財へのFM投資価値研究部会
 企業として「人財」を数値で「FM化」を図りたい。人財管理に
 必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報提供、知識
 提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと人財（事務局
 宛メール）事務局宛メールにて参加。
07. こころからたのしみFM研究部会
 経営戦略やPM活動に関する情報提供、知識提供等を行う。毎月
 1回開催。事務局：FMとこころ（事務局宛メール）事務局宛
 メールにて参加。
08. インフラマネジメント研究部会
 企業として「インフラ」を数値で「FM化」を図りたい。インフラ
 管理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報
 提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMとイン
 フラ（事務局宛メール）事務局宛メールにて参加。
09. キヤンパスFM研究部会
 キャンパスFM活動に関する情報提供、知識提供等を行う。毎月
 1回開催。事務局：FMとキャンパス（事務局宛メール）事務局
 宛メールにて参加。
10. バイオスケープFM研究部会
 バイオスケープFM活動に関する情報提供、知識提供等を行う。毎
 月1回開催。事務局：FMとバイオスケープ（事務局宛メール）
 事務局宛メールにて参加。
11. 会社総務FM研究部会
 企業として「会社総務」を数値で「FM化」を図りたい。会社総
 務管理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情
 報提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと
 会社総務（事務局宛メール）事務局宛メールにて参加。
12. エコノミクスFM研究部会
 企業として「エコノミクス」を数値で「FM化」を図りたい。エ
 コノミクス管理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に
 関する情報提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：
 FMとエコノミクス（事務局宛メール）事務局宛メールにて参
 加。
13. 施設管理FM研究部会
 企業として「施設管理」を数値で「FM化」を図りたい。施設管
 理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報
 提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと施設
 管理（事務局宛メール）事務局宛メールにて参加。
14. 品質管理FM研究部会
 企業として「品質管理」を数値で「FM化」を図りたい。品質
 管理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に関する情報
 提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：FMと品質
 管理（事務局宛メール）事務局宛メールにて参加。
15. FM財務評価手法研究部会
 FM財務評価手法に関する情報提供、知識提供等を行う。毎月
 1回開催。事務局：FMと財務評価（事務局宛メール）事務局
 宛メールにて参加。
16. コンピュータ活用研究部会
 企業として「コンピュータ」を数値で「FM化」を図りたい。コ
 ンピュータ管理に必要となる経営方針、経営戦略、PM活動に
 関する情報提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。事務局：
 FMとコンピュータ（事務局宛メール）事務局宛メールにて参
 加。
17. BIM-FM研究部会
 BIM-FMに関する情報提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。
 事務局：FMとBIM（事務局宛メール）事務局宛メールにて参
 加。
18. BIM-FM研究部会
 BIM-FMに関する情報提供、知識提供等を行う。毎月1回開催。
 事務局：FMとBIM（事務局宛メール）事務局宛メールにて参
 加。

09…をクリック

過去の発表資料も
ダウンロード可能です

キャンパスFM研究部会 (SCM06)

【施設事例研究】

大学での新たな教育展開と社会ニーズに対応した
FM実践事例と手法の調査研究
ならびに大学教職員へのFMの浸透



部長：関達 利雄
 株式会社FOR代表取締役
 認定インストラクター

● keywords ●

学生本位の学びの場 オンライン授業 進学する魅力・価値 学生数の減少
ダウンサイジング カーボンニュートラル・ZEB 基本金・減価償却・積立金

サマリー 大学は、我が国の成長を支える存在であり、教育・研究に成果を出しながら経営を継続する必要

研究成果 他

ファシリティマネジメントフォーラム ※ 11: IFMA機関誌「IFMA JOURNAL」掲載

- FMフォーラム2023 (大学設置基準改正などの潮流を踏まえたキャンパス施設の方針性調査)
- FMフォーラム2023_1J (大学設置基準改正などの潮流を踏まえたキャンパス施設の方針性調査)
- FMフォーラム2022 (サステナブル時代のキャンパスFM -大学の施設・世財担当者のための初級講座-)
- FMフォーラム2022_1J (サステナブル時代のキャンパスFM)
- FMフォーラム2021 (総務拠点から見える私立大学のファシリティマネジメント)

ご興味があれば、まずはお試し参加から。

1 1 月からキャンパスFM基礎講座を開きますので、ご参加検討お願いします。

ご清聴ありがとうございました。



JFMAキャンパスFM研究部会 副部長
学校法人文京学院 法人事務局（施設課統括）
大谷英継（hotani@bgu.ac.jp）



文京学院